

第9回

遠州広域行政推進会議

会議資料

開催日：平成27年7月9日(木)

開催地：浜松市

会議資料

- ・資料1 地域公共交通について（最終報告）…………… 1
- ・資料2 経済・産業政策の広域連携について（最終報告）…………… 1 1
- ・資料3 議題（1）健康寿命の延伸に向けた連携について…………… 2 3
- ・資料4 議題（2）文化財保護行政の広域連携について…………… 3 0

地域公共交通について(最終報告)

平成27年7月9日
第9回遠州広域行政推進会議

1

会議資料

1. はじめに
2. 公共交通空白地有償運送制度緩和について
3. 公共交通空白地有償運送制度の課題について
4. 地域間幹線系統の確保維持にむけて

2

1. はじめに

<1-1 経緯>

平成26年11月27日に開催された遠州広域行政推進会議において「バスの減便や撤退が相次ぎ、地域住民の生活確保に支障が生じている地域への交通確保対策が急務」という意見をうけて、各市町の公共交通担当が課題、対策等について検討する会議を開催

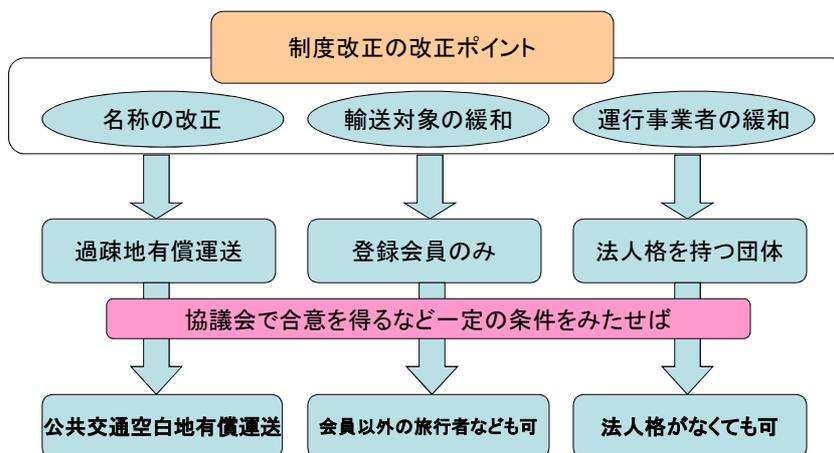
<1-2 会議の開催状況>

遠州広域推進会議に係る地域公共交通担当課長会議

| 回 | 月日 | 会場 | 主な内容 | ゲストスピーカー |
|---|----------|-----|-----------------------|------------------------------------|
| 1 | H27.2.19 | 浜松市 | 過疎地有償運送制度・実施状況・課題について | 静岡運輸支局首席運輸企画専門官 静岡運輸支局首席運輸企画専門官 |
| 2 | H27.6.4 | 磐田市 | 地域間幹線系統の維持確保について | しずてつジャストライン㈱ 秋葉バスサービス㈱ 遠州鉄道㈱ |

3

2. 公共交通空白地有償運送制度緩和について (旧:過疎地有償運送)



4

参 考

自家用有償旅客運送とバス・タクシー事業

○ バス・タクシーによるサービスが提供されない地域において、自家用有償旅客運送の利用が拡大している。



出典：国土交通省

3. 公共交通空白地有償運送の課題について

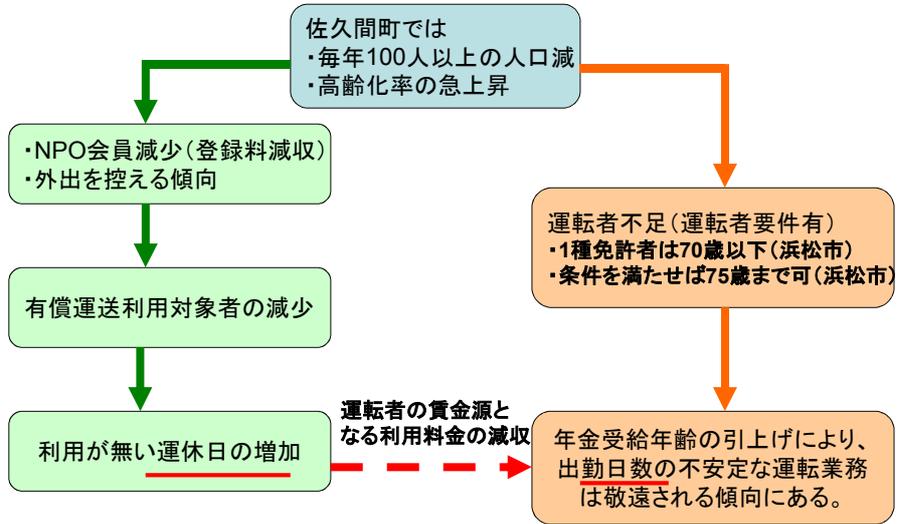
<3-1 収支バランス>

- ・事業における収支バランスの均衡を図ることは難しい
- ・補助金・NPO会員登録料・基金の取崩し等で事業者負担額を補っている

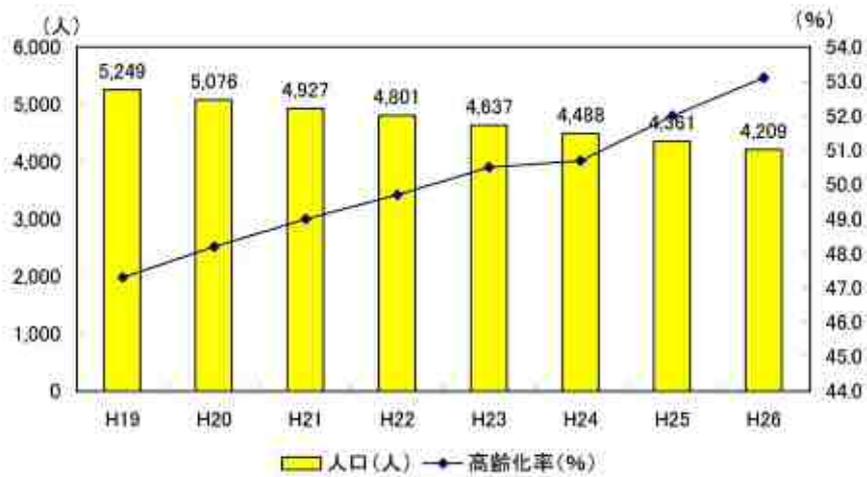
(例)「NPO法人 がんばらまいか佐久間」過疎地有償運送 利用状況

| | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 運行日数(日) | 243 | 241 | 243 | 242 | 244 | 244 |
| 運行回数(回) | 4,203 | 5,386 | 5,304 | 3,991 | 3,438 | 3,834 |
| 運賃収入(円) | 2,936,500 | 3,711,300 | 4,188,300 | 3,682,500 | 3,236,800 | 3,368,400 |
| 利用者数(人) | 5,258 | 6,998 | 6,728 | 4,988 | 4,252 | 4,811 |
| 欠損額(円) | ▲2,649,557 | ▲1,855,860 | ▲2,311,343 | ▲1,641,000 | ▲2,087,481 | ▲1,591,647 |
| 事業者負担額(円) | 1,649,557 | 855,860 | 1,311,343 | 821,000 | 1,087,401 | 796,647 |
| 市補助金(円) | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 820,000 | 1,000,000 | 795,000 |

<3-2 人口の減少と高齢化>



* 佐久間町における人口と高齢化率



<3-3 公共交通空白地有償運送制度の課題・・・まとめ>

各市町の意見・考え

- 遠州地域では、浜松市以外での取組み事例がない。
- 事業収支を考えると、難しい事業である。
- バス路線撤退で生じた交通空白地で取組みたい団体がでてくる可能性がある。

NPO法人等
から相談

相談を受けた市町

開設へ向けて

- ◆何からはじめたらいいのか？
- ◆ガイドラインの制定は？
- ◆補助要綱の制定は？
- ◆関係者への同意？
- ◆相談窓口はないのか？

相談

開設に向けた支援体制の構築

浜松市・公共交通空白地
有償運送事業者

- ◆準備会設置や事業計画、経営シミュレーションなど開設に向けた支援
- ◆開設後も利用促進策など継続的に支援

9

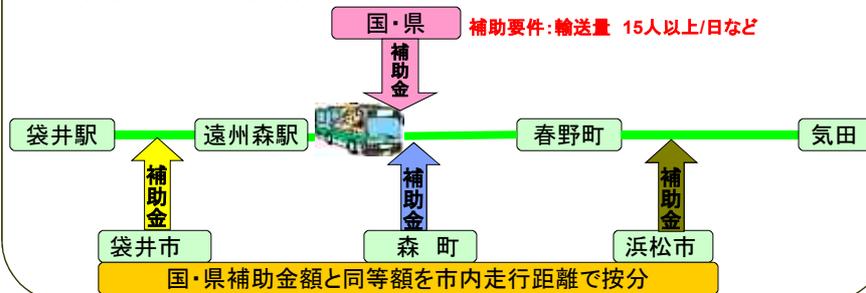
4.地域間幹線系統の維持確保にむけて

<4-1 地域間幹線系統とは>

- ・市町を跨ぐ、主要な幹線(通勤や通学に利用)
- ・欠損額について交付される補助金によって運行を維持

補助金のイメージ図

例)秋葉線・・・袋井市、森町、浜松市関係路線



10

*** 秋葉線補助分担率**

補助金全体に対する負担率

路線総延長に対する市町按分率



| 市町 | 走行距離(km) | 按分率(%) |
|-----|----------|--------|
| 袋井市 | 7.4 | 17 |
| 浜松市 | 16.04 | 37 |
| 森町 | 20.06 | 46 |
| 合計 | 43.5 | 100 |

(参考)遠州地域の地域間幹線系統・・・抜粋

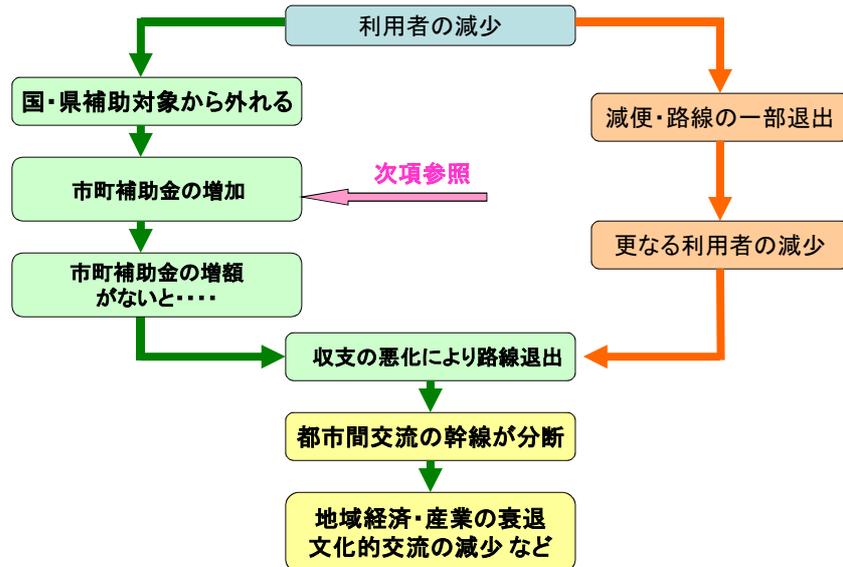
| 路線名 | 交通事業者 | 沿線市町 | 運行経路 |
|---------|--------------|------------|---------------------|
| 相良御前崎線 | しずてつジャストライン㈱ | 牧之原市・御前崎市 | 牧之原市～御前崎市 |
| 掛川大東浜岡線 | しずてつジャストライン㈱ | 御前崎市・掛川市 | 御前崎市～掛川駅及び中東遠医療センター |
| 菊川浜岡線 | しずてつジャストライン㈱ | 御前崎市・菊川市 | 御前崎市から菊川駅 |
| 秋葉中遠線 | 秋葉バスサービス㈱ | 掛川市・袋井市・森町 | 袋井駅～掛川市大東支所 |
| 秋葉線 | 秋葉バスサービス㈱ | 袋井市・森町・浜松市 | 袋井駅～森町～浜松市天竜区春野町 |
| 磐田線 | 秋葉バスサービス㈱ | 磐田市・袋井市・森町 | 磐田市～袋井市～森町 |
| 浜名線 | 遠州鉄道㈱ | 浜松市・湖西市 | 浜松市～湖西市 |

<4-2 各市町の課題>

- ・利用者の減少により、国・県の補助対象から外れる可能性がある。
- ・国、県補助から外れると、市町負担分の補助金額が増加。
- ・路線撤退になった場合、地域に多大な悪影響を及ぼす。
- ・沿線沿いの市町であっても利用者数に大きなばらつきがある。

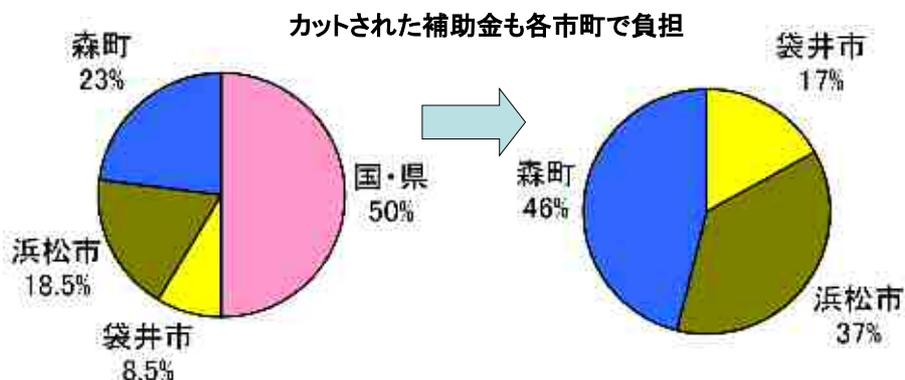
13

* 利用者減少の影響



14

*** 市町補助金増加イメージ**



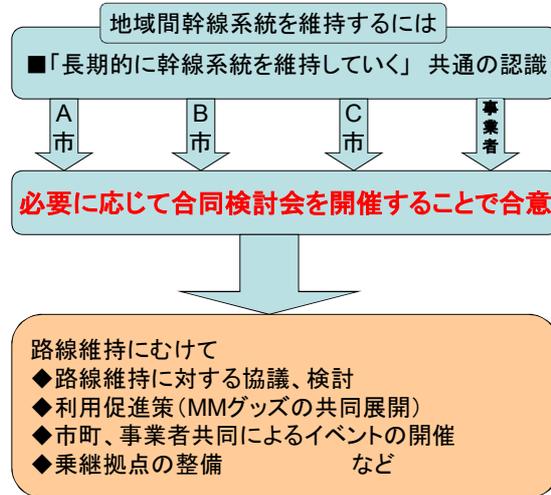
15

<4-3 ゲストスピーカーの意見>

- ・補助路線から外れたり、路線撤退してからの対策では遅いので、長期的なスパンで対策を考える必要がある。(静岡運輸支局)
- ・各市町の交通会議では、地域間幹線系統についても議論している。近隣市町の会議に参加してみることも効果的だと思う。(静岡運輸支局)
- ・利用促進対策は事業者も力を入れているが効果が出にくい。今後は、他路線で行政が行っている対策についての情報などを共有し活かせることを期待する。(秋葉バスサービス㈱)
- ・一部路線では合同検討会を行い効果的だと感じた。今後は、他の路線でも合同検討会を積極的に設けて欲しい。(しずてつジャストライン㈱)
- ・関係市町ごとに協議を行っていたものを、この会を機に関係市町、事業者一体となって協議を行うことが路線維持につながっていく。(遠州鉄道㈱)

16

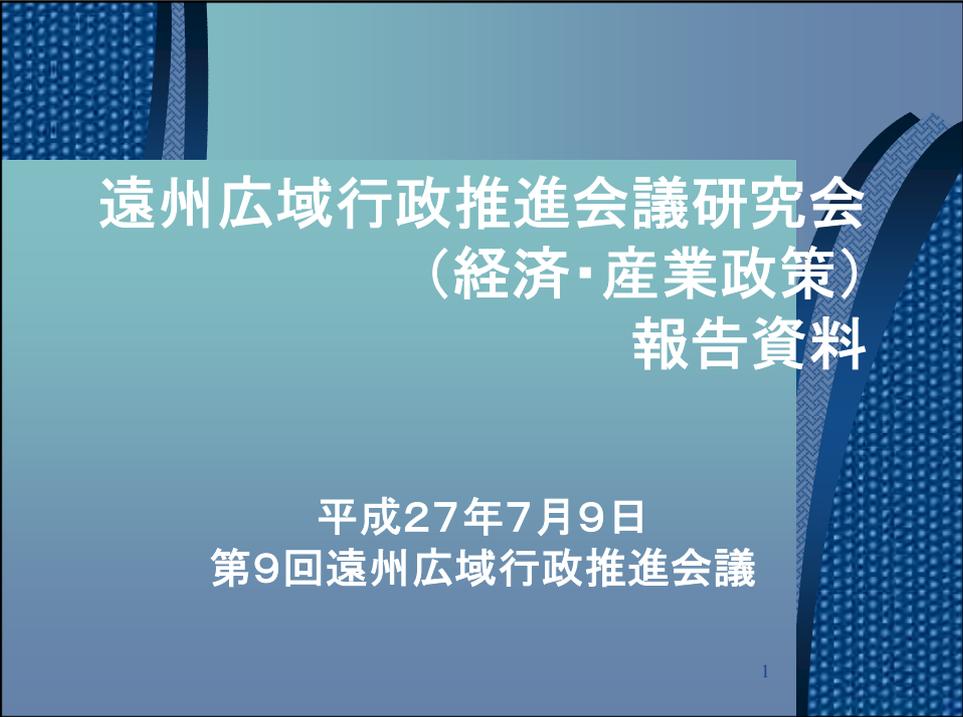
<4-4 地域間幹線系統の確保…まとめ>



17

ご清聴ありがとうございました

18



1. 目的

- 研究会(経済・産業)の目的
 - 遠州地域の8市1町において、経済・産業分野に関する広域連携事業の可能性を研究し、市町の枠を越えて、行政、産業支援機関、大学、金融機関など地域産学官金連携による経済・産業政策を提案する。
- 研究会の体制

遠州地域8市1町の産業振興部局の課長及び担当者により 研究会とワーキンググループを組織

 - 研究会 課長級の会議
 - WG 産業振興担当者の会議

2. 研究会の取組み

○ 研究テーマの選定

- 各自治体における産業の現状把握と分析
- 行政枠を超えたスケールメリットを活かした
産業振興施策の研究



3

2. 研究会の取組み

○ 研究会・ワーキンググループ活動実績

- 研究会：3回（①H26.9、②H27.1、③H27.4）
- WG：7回（①H26.10、②H26.10、③H26.11、
④H26.12、⑤H27.2、⑥H27.3、⑦H27.6）
※会場は持ち回りにて開催

○ 外部講師による勉強会

- 関東経済産業局（第3回WG）
- 大手監査法人（第3回WG）
- 中小企業基盤整備機構（第5回WG）
- 日本政策金融公庫（第3回研究会）
- 静岡県よろず支援拠点（第7回WG）

4

3. 広域連携による産業政策の研究

- 各自治体における産業の状況・産業振興の取り組みの分析
 - 産業を活性化すべきという認識は一致
 - しかし、業種や特色など産業構造はさまざま
 - 広域連携により効果的に取り組める事業を検討

- 政策研究において考慮すべき点
 - 静岡県にて実施している事業との重複・役割分担
 - 既存施策の活用

5

3. 広域連携による産業政策の研究

- 広域連携により効果的に取り組める事業を検討

| | | |
|-----------|------------------|--|
| ①地域企業への支援 | 人材育成 | 産業人材の育成 |
| | 企業活動支援 | 知的財産活用支援 防災対策支援 研究開発支援 創業支援・ベンチャー企業支援 |
| | 販路開拓 (海外販路含む) | 展示会・見本市の開催 中小企業のマッチング支援 地域企業情報の発信・PR |
| | 情報発信 | 各種産業支援情報の発信 |
| ②行政間の連携 | 職員の情報交換、情報の共有化 | |
| | 地域産業の分析 | |
| | 国・県への提言 | |
| | 市町の産業振興担当職員の人材育成 | |

6

4. 広域連携による創業支援事業

○テーマの選定

広域連携による創業支援事業

7

4. 広域連携による創業支援事業

○現状

- 国内の開業率:4.6%
 - ・特に、地方における開業率は低迷。
- 各市町の各機関が単独で創業支援事業を実施
 - ・行政、支援機関、金融機関が連携をしての取組みまでには至っていない。

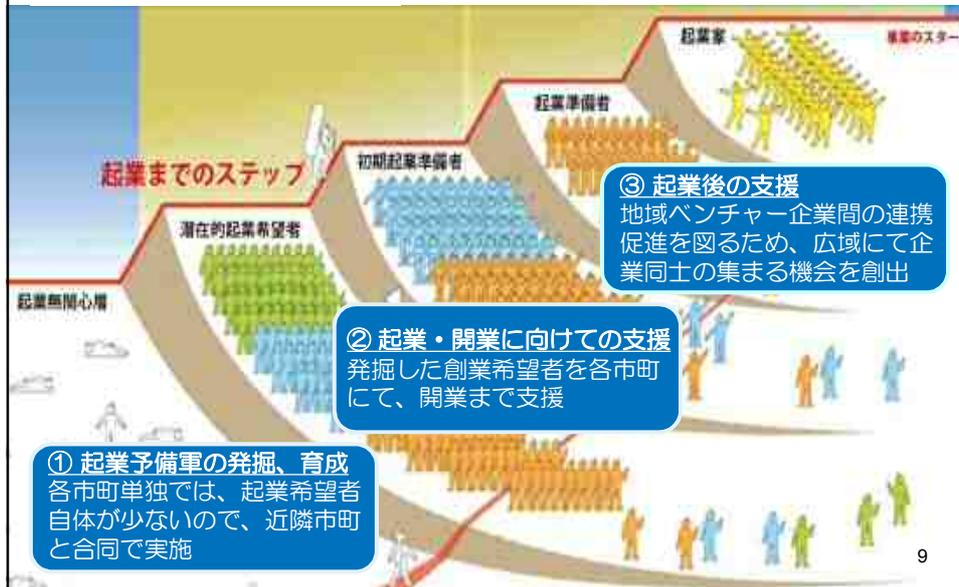
○課題

- 産業競争力強化法の施行
 - ・国の積極的な創業支援施策への対応が必要。
- 地域の活力を生む、新たな経済の担い手の創出
 - ・地域の産学官金が一丸となった創業支援が必要。

8

4. 広域連携による創業支援事業

○実施事業全体図



4-1. 起業予備軍の発掘、育成

① 起業予備軍の発掘、育成（広域連携）

○課題

- 各市町単独では
起業希望者が少ない

○事業内容

- 起業希望者発掘セミナー
・ブロック単位等で実施
(浜名湖、中遠、中東遠)
・テーマは「地域グルメ」、
「ものづくり」、
「女性による起業」等

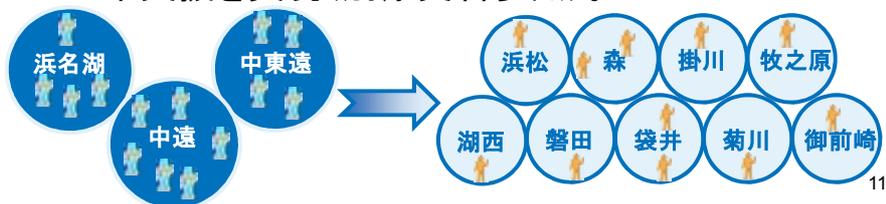


4-2. 起業・開業に向けての支援

② 起業・開業に向けての支援(各市町単位)

● 各市町において産学官金の連携による個別支援の実施

- ・起業段階では、各市町ごとに支援を実施。
- ・各市町で**創業支援体制**を構築し、密着支援を実施。
- ・研究会における情報交換により、より効果的な創業支援を実現(別添資料参照)。



4-3. 起業後の支援

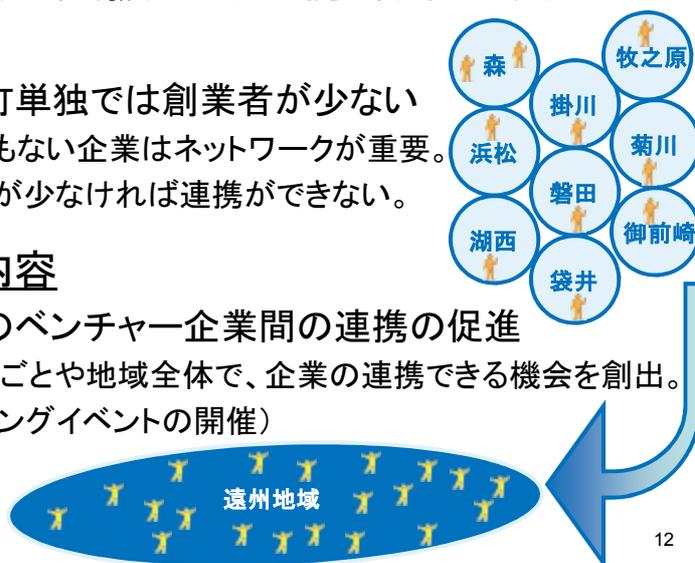
③ 起業後の支援(広域連携・各市町単位)

○ 課題

- 各市町単独では創業者が少ない
 - ・創業間もない企業はネットワークが重要。
 - ・創業者が少なければ連携ができない。

○ 事業内容

- 地域のベンチャー企業間の連携の促進
 - ・ブロックごとや地域全体で、企業の連携できる機会を創出。(マッチングイベントの開催)



5. 今後のスケジュール

○ 起業予備軍の発掘セミナーの開催(予定)

- セミナーは先輩起業家による講演、創業支援者による講演、個別相談会等の実施を調整していく。
 - 浜名湖ブロック(テーマ:地域グルメ)
 - 中遠ブロック (テーマ:ものづくり)
 - 中東遠ブロック(テーマ:女性による起業)

○ 広域連携活動の継続

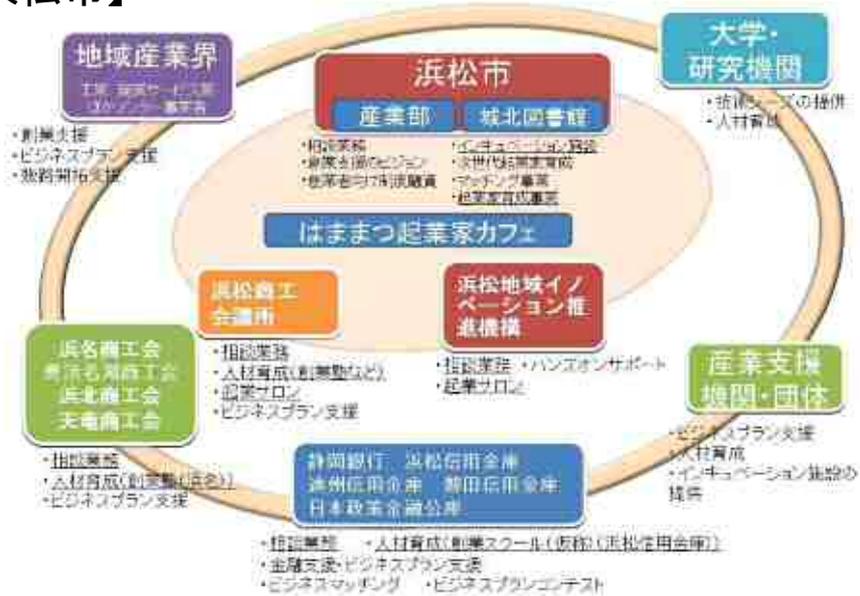
- 各市町における施策の情報交換
- 国の動向・市場動向の調査・共有
- 外部講師を招いた勉強会の開催
- 広域連携事業の検討

13

(参考)各自治体の創業支援体制

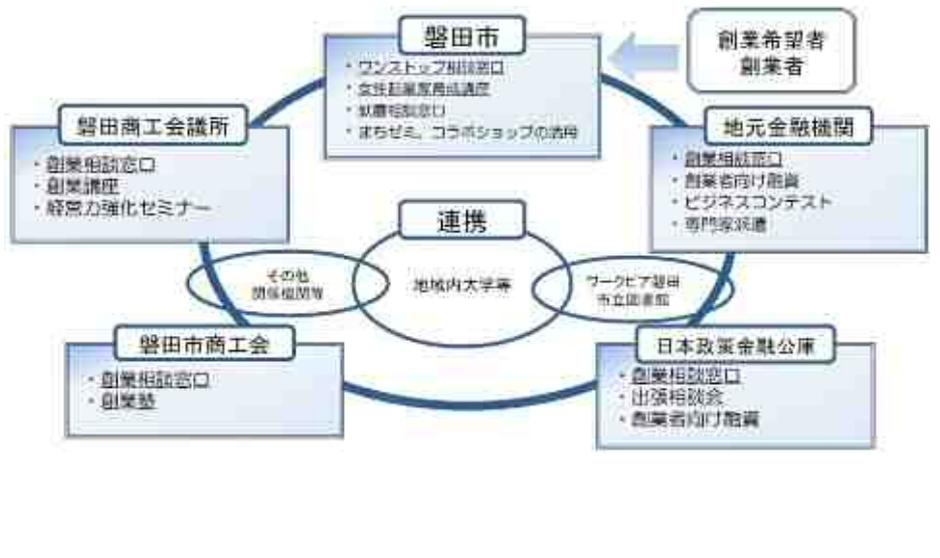
(参考)各自治体の創業支援体制

【浜松市】



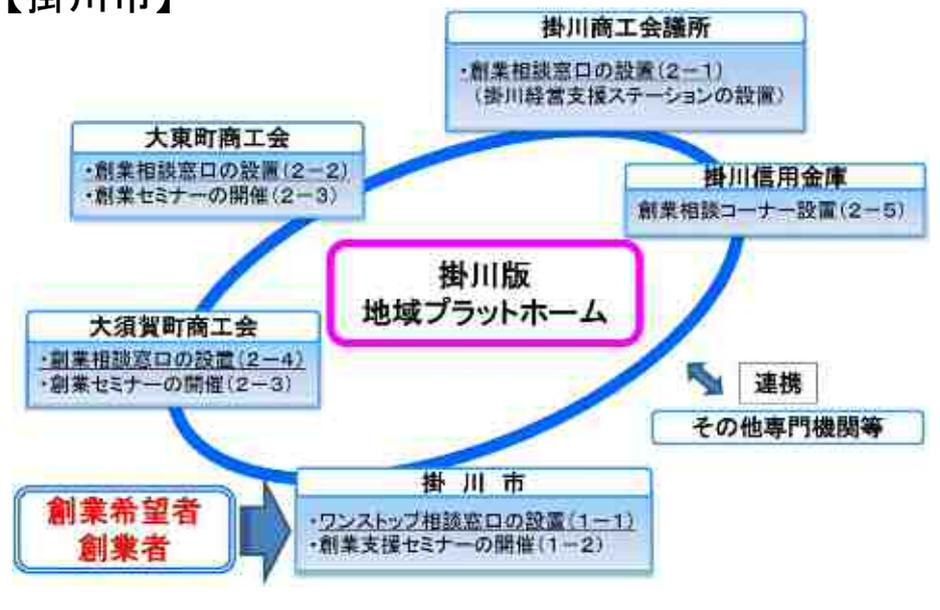
(参考) 各自治体の創業支援体制

【磐田市】



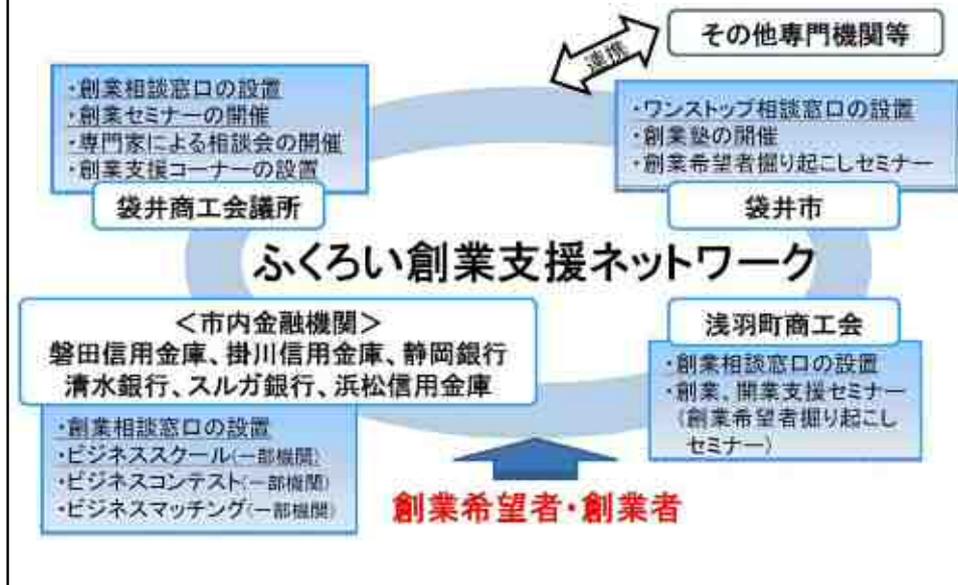
(参考) 各自治体の創業支援体制

【掛川市】



(参考)各自治体の創業支援体制

【袋井市】



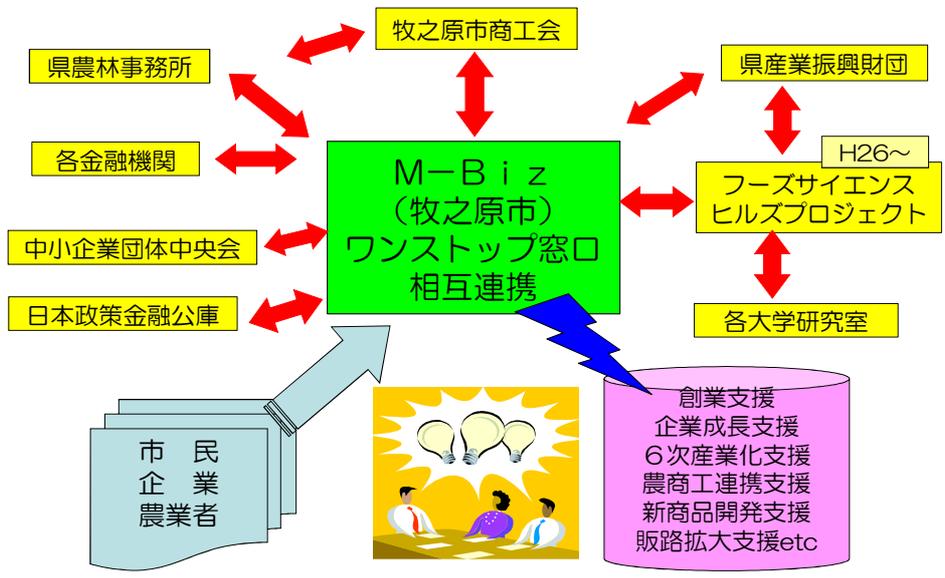
(参考)各自治体の創業支援体制

【湖西市(案)】



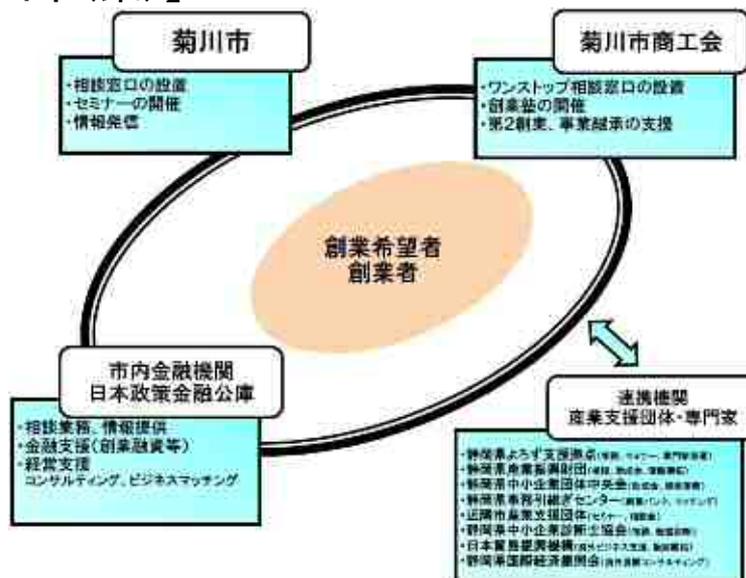
(参考)各自治体の創業支援体制

【牧之原市】 **がんばる中小企業応援事業**



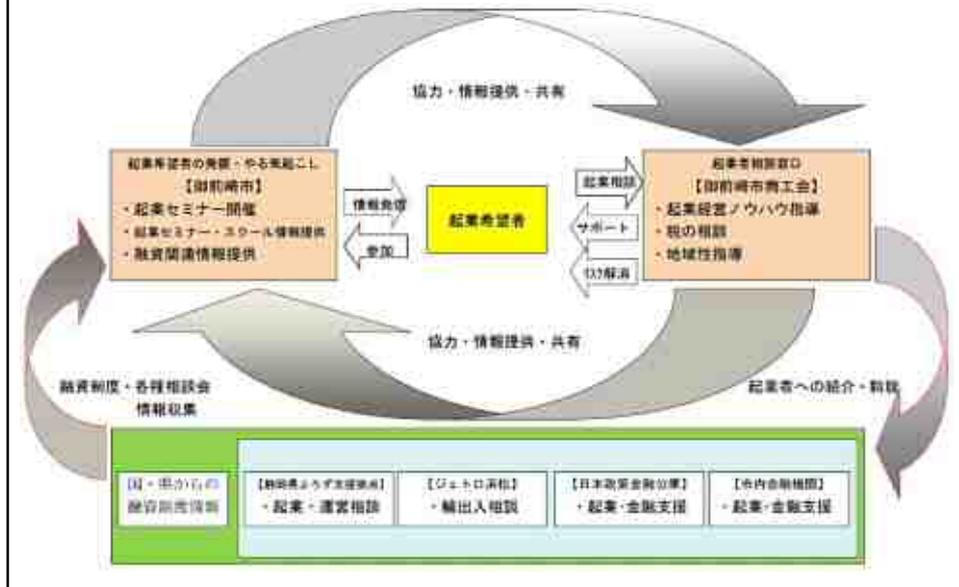
(参考)各自治体の創業支援体制

【菊川市(案)】



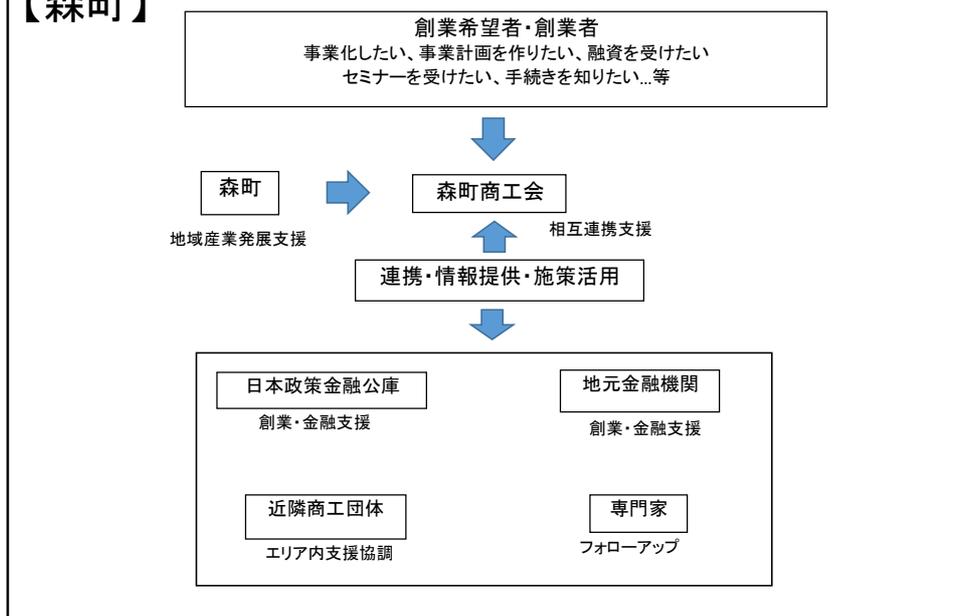
(参考) 各自治体の創業支援体制

【御前崎市(案)】



(参考) 各自治体の創業支援体制

【森町】



議題（１）健康寿命の延伸に向けた連携について

【提案趣旨】

- ・健康寿命は、政令指定都市トップである浜松市、都道府県トップの静岡県など、本地域にとって大きな魅力となる可能性を持っている。
- ・人口の高齢化はもとより、今般の介護保険制度改正により、基礎自治体における介護予防等の取組の重要性が増している。
- ・以上のことから、「健康寿命の延伸に向けた連携について」、介護予防等を中心にして、遠州広域行政推進会議における本年度の研究テーマとして提案するもの。

【参考】健康寿命について

「健康寿命」とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。「国民生活基礎調査」のデータから算定。

※厚生労働科学研究による健康寿命（平成 22 年データによる）

全 国：男性 70.42 年／女性 73.62 年

静岡県：男性 71.68 年／女性 75.32 年

（都道府県の中では男性 2 位、女性 1 位）

浜松市：男性 72.98 年／女性 75.94 年

（政令指定都市の中では男女ともに 1 位）

【各市町の現状と主な課題】

- ・各市町の人口（高齢化率）、各市町の取組等は資料 3 別紙のとおり。

《主な課題》

- ・改正介護保険法への対応（サービス提供体制の確保等）
- ・ボランティア、住民参画によるサービス提供体制の構築
- ・ロコモ、認知症予防取組等の普及啓発 など

【連携・研究希望事項】

- ・改正介護保険法への対応（介護予防・日常生活支援総合事業の移行等）
 - ・介護予防事業として特色ある取組の情報交換等
 - ・介護予防・健康増進の事業で有効性の高い事業、成功の要因分析結果等の情報共有
- ※これ以外にも、各市町の関係部署（高齢者福祉、地域保健、介護保険担当部署）により議論を進める中で、項目を盛り込む想定。
- ※情報交換のみならず、関係市町間の連携方策も検討。

資料3別紙 各市町の健康寿命等に関する基礎データ

| 自治体名 | ※人口 (人) | ※65歳以上 人口(人) (高齢化率) | 介護保険事業状況(平成27年3月末) | | | | | | 健康寿命延伸に向けて、各市町で重点的に取り組んでいる事業 (主なもの) | 介護予防に係る各市町の現状と課題 | 連携・研究を希望する事項 |
|------|------------|---------------------------|--------------------|---|---|--------------|---|---|---|--|--|
| | | | 65歳以上75歳未満 | | | 75歳以上 | | | | | |
| | | | 被保険者数 (人) | 要支援・要介護 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 要介護2以上の 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 被保険者数 (人) | 要支援・要介護 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 要介護2以上の 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | | | |
| 浜松市 | 808,959 | 204,991 (25.3%) | 104,547 | 3,915 (3.7%) | 730 (0.7%) | 99,953 | 29,253 (29.3%) | 15,006 (15.0%) | <ul style="list-style-type: none"> 健康増進計画「健康はままつ21」の普及啓発 生活習慣病予防の発症予防と重症化予防(ママのための元気アップセミナー、うごく&スマイル、3Sプロジェクト、CKD対策など) 健康を守り支えための環境整備(健康はままつ21推進協力団体等との連携強化) ロコモーショントレーニング(高齢者のロコモティブシンドロームを予防する体操として、椅子を利用したスクワットや開眼片足立ちの簡単な2つの運動を、身近な自治会館などを利用して継続的・全市的に普及することで、介護予防と健康寿命の延伸を目指している。) | <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度までの介護予防事業参加率は、二次予防事業対象者の7~9%にとどまっていた。その理由として、専門スタッフや専用器具を揃えた施設への通所型による事業を委託実施しているため、会場や開催時期が限られており参加しにくいことが挙げられる。また、短期間の事業形態では、改善した生活機能を個人の努力だけで維持・継続させることが難しい。このことから、平成26年度にロコモーショントレーニング事業をモデル的に実施したところ、参加率が約12%まで改善された。 | <ul style="list-style-type: none"> 元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支える仕組みづくりとして、施設ボランティアや地域ボランティアの活動に対し換金できるポイントを付与している。今後、健康づくりや介護予防など、自分自身の健康度を高める活動にも、ポイントを付与できるよう制度の拡充を検討しているが、制度設計における連携が図られると良いと考える。 |
| 磐田市 | 170,548 | 43,066 (25.3%) | 22,952 | 759 (3.3%) | 361 (1.6%) | 20,050 | 5,545 (27.7%) | 2,957 (14.7%) | <ul style="list-style-type: none"> 「まちの保健室」等を利用した地域の健康特性を重視した保健活動の推進 妊娠出産から高齢期に至るまで、途切れのない健康づくりの取組 生活習慣病予防と重症化予防の徹底 がん検診受診率向上の取組 特定健診受診率向上の取組 健診結果に基づいた保健指導の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 「介護予防」というコンセプトが、対象となる高齢者層にまだ浸透していない。 高齢者一人一人が自らの健康と身体のために「介護予防」に関心を持つよう、周知啓発。 | <ul style="list-style-type: none"> 介護予防における国との連携、各市町の取り組みの情報共有。 老人クラブ・自治会・ボランティア団体・NPO等など地域住民間のネットワーク強化による介護予防の普及 |
| 掛川市 | 117,450 | 28,673 (24.4%) | 14,306 | 401 (2.8%) | 226 (1.6%) | 14,422 | 4,030 (27.9%) | 2,474 (17.2%) | <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病対策の強化 お達者度県下1位を目指しプロジェクトチームを立ち上げた | <ul style="list-style-type: none"> 介護保険法の改正による新しい総合事業の構成を検討する中で、今年度は、既存の地域資源の整理を行っている。今後は、サービス提供主体の確保等が課題となってくる。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムの取組状況 介護予防・日常生活支援総合事業への移行についての情報交換 |

※ H27年4月1日現在(住民登録による)

| 自治体名 | ※人口 (人) | ※65歳以上 人口(人) (高齢化率) | 介護保険事業状況(平成27年3月末) | | | | | | 健康寿命延伸に向けて、各市町で重点的に取り組んでいる事業 (主なもの) | 介護予防に係る各市町の現状と課題 | 連携・研究を希望する事項 |
|------|------------|---------------------------|--------------------|---|---|--------------|---|---|--|---|--|
| | | | 65歳以上75歳未満 | | | 75歳以上 | | | | | |
| | | | 被保険者数 (人) | 要支援・要介護 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 要介護2以上の 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 被保険者数 (人) | 要支援・要介護 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 要介護2以上の 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | | | |
| 袋井市 | 87,155 | 18,779 (21.5%) | 9,880 | 329 (3.3%) | 170 (1.72%) | 8,801 | 2,570 (29.2%) | 1,398 (15.9%) | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防と重症化予防 ロコモティブシンドロームの予防 認知症予防・支援 | <ul style="list-style-type: none"> 介護予防については、高齢者の心身機能の維持改善を図り、要支援・要介護状態になることを防ぎ、できる限り自立した生活を送ることができるよう運動教室などの各事業に取り組んでいる。 介護予防教室の実施会場を増やしたが、なお定員を超える参加希望がある。このため、平成27年度に2会場増やすとともに、新たに開設した総合健康センターにおいて年齢区分を設けない運動教室への参加を促している。また、教室の自主グループ化等、広く多くの市民が介護予防事業に参加できるような体制を検討する。 介護保険法の改正による新しい介護予防・日常生活支援総合事業(袋井市は平成29年度から実施予定)、及び包括的支援事業の充実分(在宅医療・介護連携の推進、認知症施策の推進、地域ケア会議の充実、生活支援サービスの体制整備)への取組みについて関係機関と協議を重ねている。 | <ul style="list-style-type: none"> 介護予防に係る各市町の取組に関する情報交換 地域包括ケアシステム構築にむけた各市町の取組に関する情報交換 介護保険制度改正等への対応 |
| 湖西市 | 61,027 | 15,010 (24.6%) | 8,095 | 204 (2.5%) | 88 (1.1%) | 6,896 | 1,687 (24.5%) | 843 (12.2%) | <ul style="list-style-type: none"> 自助、互助、共助による支え合い介護予防事業を展開 元気高齢者を増やすため、魅力ある一次予防教室の開催 介護予防に資するボランティア育成活動支援、継続支援 | <ul style="list-style-type: none"> 新総合事業の多様なサービスの確保 | <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度改正等への対応 |
| 御前崎市 | 33,823 | 8,810 (26.0%) | 4,400 | 121 (2.8%) | 76 (1.7%) | 4,382 | 989 (22.6%) | 755 (17.2%) | <ul style="list-style-type: none"> 一般高齢者施策として実施 介護予防出前講座等を開催し、介護予防の意識付けを図る。 参加者が歩いて行ける範囲での転倒予防教室を開催する。 地域ボランティアが主催するサロン、教室等に対し、保健師の派遣、助成等の支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 理学療法士等の指導の下、市民ボランティアの養成を図り、市民ボランティアによる転倒予防教室の開催に取り組んでいるが、市民ボランティア養成講座に参加する人員が伸び悩んでおり、ボランティアを担う新規人材の確保が課題となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 介護予防事業で特色ある取り組みをしている事例等の情報交換 |

※ H27年4月1日現在(住民登録による)

| 自治体名 | ※人口 (人) | ※65歳以上 人口(人) (高齢化率) | 介護保険事業状況(平成27年3月末) | | | | | | 健康寿命延伸に向けて、各市町で重点的に取り組んでいる事業 (主なもの) | 介護予防に係る各市町の現状と課題 | 連携・研究を希望する事項 |
|------|------------|---------------------------|--------------------|---|---|--------------|---|---|--|--|---|
| | | | 65歳以上75歳未満 | | | 75歳以上 | | | | | |
| | | | 被保険者数 (人) | 要支援・要介護 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 要介護2以上の 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 被保険者数 (人) | 要支援・要介護 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | 要介護2以上の 認定者数(人) (被保険者数 における割合) | | | |
| 菊川市 | 47,679 | 11,718 (24.6%) | 5,861 | 172 (2.9%) | 110 (1.9%) | 5,831 | 1,511 (25.9%) | 1,000 (17.1%) | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康チェックの日」(体力測定、簡易骨測定、血圧測定) ・「運動教室(スタイルアップ教室)」(運動実習、ふじ33プログラム) ・「ウォーキング教室」 ・「健康マイレージ」 ・「調理実習」(健康講話、実習) ・「栄養セミナー」(講話、実習) ・「ロコモ予防教室」 ・「8020運動の推進」 ・「健康相談」 ・「特定保健指導」 ・「元気はつらつ教室(二次予防事業)、ロコモ予防教室(一次介護予防事業)」 ・「70歳からの健康講座」 ・「いきいきサロン(一次介護予防事業)」 ・「地域サロンにおける健康体操、認知症予防の普及活動」など | <p>健康寿命の延伸のためには早期から介護予防や健康づくりに取り組んでいくことが大切であり、ロコモ予防や認知症予防などのさらなる普及啓発が必要である。</p> <p>課題として、65歳未満を対象とした健康増進事業において、軽度の介護認定者やその前段階ある者(介護認定予備群的な者)そのものを対象とした事業が無いことや、若年層を対象とした認知症対策事業に取り組めていないことが挙げられる。</p> <p>また、今後は地域における社会参加の促進がこれまで以上に求められてくるため、社会参加できる場(地域のサロンなど)の確保と、活性化のための取り組みをどのように行っていくかが課題として挙げられる。</p> <p>介護予防部門、健康増進部門共に今後取り組むべき事項は多く、対応していくための人員確保も大きな課題である。</p> | <p>各市町の介護予防・健康増進の取り組みで、成果の上がっている事業の情報がほしい。また、成果の要因についての分析結果もあわせて教えていただきたい。</p> <p>ほか、介護予防事業に関して、業務委託できる機関(業者)の情報があれば、教えていただきたい。</p> |
| 牧之原市 | 47,499 | 13,162 (27.7%) | 6,229 | 236 (3.8%) | 159 (2.6%) | 6,948 | 1,976 (28.4%) | 1,087 (15.6%) | <ul style="list-style-type: none"> ・市の総合計画の重点プロジェクト「生き生きと健康で活躍プロジェクト」で「地域包括ケアシステムの構築」する。 ・生活習慣病の発生予防(検診受診勧奨・健康教育)と重症化予防(戦略研究事業による家庭訪問等)・妊娠期、乳幼児期からの健康づくりの推進 ・市民の健康づくりの主体性を育成するための社会環境づくり(リーダー育成・店舗や企業との連携) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業の通所型及び訪問型サービスを開拓していく必要があるが、住民主体のサービスをどのようにして作り上げていくかが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療介護連携や、認知症初期集中支援チームなどの医療関連の施策を実施するにあたり、医療資源の確保は大きな課題である。 ・今後、権限移譲で介護保険事業所の指導の事務量が急増することが予想される。広域的な連携も解決策の一つとして考えられる。 |
| 森町 | 19,220 | 5,808 (30.2%) | 2,515 | 73 (2.9%) | 39 (1.6%) | 3,332 | 970 (29.1%) | 544 (16.3%) | <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防リーダー(元気もりもりサポーター)の養成と活動支援。(100サロン、居場所での活動) ・介護支援ボランティア(ボランティアポイント制度)の支援。 ・介護予防事業(さわふれクラブ、脳活性化教室、運動教室)の開催。 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法の改正に伴い、新しい総合事業の実施に際し、多様なサービス(生活支援サービス等)のサービス提供主体の確保が課題。 ・制度改正に伴う地域包括支援センターの業務の多様化に対する対応。(当町では、地域包括支援センターが直営) | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法の改正に伴い、医療と介護の連携推進事業の実施が義務づけられた。この中で、「二次医療圏内・関係市町村の連携」が盛り込まれた。このため、関係市町村の連携のあり方について、研究したい。 |
| 計 | 1,326,641 | 331,047 (25.0%) | 170,041 | 5,901 (3.5%) | 1,761 (1.0%) | 160,335 | 45,585 (28.4%) | 24,433 (15.2%) | | | |

※ H27年4月1日現在(住民登録による)

資料3 参考資料

1. 平均寿命（0歳児の平均余命）＜平成22年度＞

(単位：年)

| | 男性 | 女性 |
|-----|-------|-------|
| 全国 | 79.59 | 86.35 |
| 静岡県 | 79.95 | 86.22 |

(単位：年)

| | 男性 | 女性 |
|------|------|------|
| 浜松市 | 81.2 | 86.6 |
| 磐田市 | 80.8 | 86.6 |
| 掛川市 | 80.5 | 86.7 |
| 袋井市 | 79.9 | 85.9 |
| 湖西市 | 80.0 | 85.9 |
| 御前崎市 | 80.3 | 85.9 |
| 菊川市 | 79.9 | 86.3 |
| 牧之原市 | 78.5 | 87.0 |
| 森町 | 79.6 | 86.1 |

出典：厚生労働省「第21回生命表（完全生命表）」「平成22年度都道府県別生命表の概況」

「平成22年度市区町村別生命表の概況」

2. 健康寿命＜平成22年度＞

(単位：年)

| | 男性 | 女性 |
|-----|-------|-------|
| 全国 | 70.42 | 73.62 |
| 静岡県 | 71.68 | 75.32 |
| 浜松市 | 72.98 | 75.94 |

出典：厚生労働科学研究による

※健康寿命とは、認知症や寝たきりにならない状態で健康で明るく元気に生活し、実り豊かで満足できる生涯を送ることができる期間のこと

3. お達者度＜平成22年度＞

(単位：年)

| | 男性 | 女性 |
|------|-------|-------|
| 浜松市 | 18.12 | 21.23 |
| 磐田市 | 18.46 | 20.95 |
| 掛川市 | 17.76 | 20.50 |
| 袋井市 | 17.51 | 21.03 |
| 湖西市 | 17.49 | 20.03 |
| 御前崎市 | 17.81 | 20.49 |
| 菊川市 | 17.46 | 20.55 |
| 牧之原市 | 17.14 | 21.14 |
| 森町 | 18.54 | 21.93 |
| 静岡県 | 17.53 | 20.77 |

出典：静岡県発表による

※お達者度とは、65歳の平均自立期間のことで、65歳から要介護度2～5にならない期間を表すもので、静岡県の健康指標のひとつとなっている

議題（２）文化財保護行政の広域連携について

【提案趣旨】

文化財に関する施策については、単に保護するだけでなく、活用することが求められている。こうした取り組みやその可能性について、さらには、遠州地域の広域連携、「日本遺産」認定に向けた取り組みの可能性について議論するものである。

【参考】「日本遺産」について

地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するもの。ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る目的で平成27年度から文化庁が実施している事業である。

【各市町の現状と主な課題】

- ・各市町の文化財活用の取り組みは、資料4別紙のとおり。

《主な課題》

- ・文化財の発信方法
- ・人材の確保
- ・保護・保存のための経費の確保

【各市町で活用したい文化財・テーマ】

- ・街道（東海道・秋葉街道・姫街道、横須賀街道、新居関所等）
- ・民俗文化財
- ・城跡
- ・近世から近代の建造物（見付学校、赤松家、松ヶ岡、友田家住宅等）

【連携・研究希望事項】

- ・文化財の活用の連携
 - ⇒「日本遺産」へのシリアル型（ネットワーク型）での候補提出
 - ⇒街道（秋葉街道、姫街道）の沿線自治体との連携
 - ⇒天竜浜名湖鉄道沿線の文化財活用の連携
 - ⇒浜名湖周辺の文化財活用の連携
- ・研究等の連携
 - ⇒発掘調査組織の広域連携
 - ⇒産業遺産・戦争遺跡
 - ⇒文化財の価値判断（指定基準）の情報交換
 - ⇒災害時の対応

資料4別紙 文化財保護にかかる各市町の状況

| 自治体名 | 各市町の文化財の指定状況（件） | | | | 文化財の保護及び活用に係る 各市町の課題 | 文化財の活用に係る各市町の取り組み | 今後、各市町において活用していきたいと 考えている文化財やテーマ | 連携・研究を希望する事項 |
|------|-----------------|-----|------|-----|---|--|---|--|
| | 国指定 | 県指定 | 市町指定 | 国登録 | | | | |
| 浜松市 | 27 | 79 | 325 | 44 | <ul style="list-style-type: none"> ・合併時の旧市町村指定文化財をすべて引き継いだり、指定基準に差が見られる。今後、統一化が課題。 ・とくに、天然記念物については、危険防止の観点から従来型の保全が困難になりつつある。 ・絶滅危惧種（環境政策課）や保存樹・保存樹林（緑政課）など、他制度との棲み分け。 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度から、遠江歴史文化ネットワークにて、遠江を所管する12市町が共催して文化財のパネル展示を開催している。参加市町は、湖西市、浜松市、磐田市、袋井市、掛川市、森町、菊川市、御前崎市、牧之原市、島田市、川根本町、吉田町。 ・徳川家康公400年祭にて文化財を積極的に顕彰している。 ・市内の無形民俗文化財保存団体連絡会が平成26年3月に発足した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・東海道・秋葉街道・姫街道等の街道交流。 ・無形民俗文化財の広域連携。 ・城跡の活用。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「日本遺産」へのシリアル型（ネットワーク型）での候補提出 |
| 磐田市 | 8 | 16 | 130 | 17 | <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財が豊富であり、それが開発の遅延など足かせになる場合がある。専門職員の育成等を計画的に行うことが求められる。 ・史跡等の土地や文化財建造物の維持管理に係る費用が負担である。 ・埋蔵文化財センターはあるが資料館や博物館のような展示施設がなく、活用手段が限られている。 ・上記の課題を踏まえ、遠州における歴史文化の中心地として、どのように全国発信していくか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別史跡遠江国分寺跡の本格的な再整備事業を開始し、同時に国分寺まつり等のイベントへの協力 ・地域活性化事業を活用した無形民俗文化財の記録保存 ・文化財だよりの発行、小学校5・6年生を対象としたたんけん隊の活動、小学校等への訪問歴史教室の実施 ・企画展及び講演会、文化財めぐり等のイベントの実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国に60数カ所しかない国分寺や国府を生かした整備やイベント ・国指定史跡である見付学校や、県指定文化財である赤松家など、明治時代の遺産を活用した事業 ・東海道の宿場町である見付宿を生かした事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・東海道や宿場町などの連携 ・秋葉街道、姫街道などの沿線自治体との連携 ・旧光明電鉄、天竜浜名湖鉄道沿線の文化財を中心とした連携 ・遠州大念仏の保存会の連携 |
| 掛川市 | 5 | 31 | 69 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・掛川市は県内で最も埋蔵文化財包蔵地（＝遺跡）の多い市であり、文化財保護法第93条の「埋蔵文化財発掘の届出書」の提出がないまま開発行為が行われる場合は、保護法に罰則規定がないため対応に苦慮している。 ・埋蔵文化財以外の文化財（建造物・民俗・天然記念物など）の知識が豊富な人材を確保したい。 ・特別天然記念物「ニホンカモシカ」の市街地出没時の対応。 | <ul style="list-style-type: none"> ・出前文化財講座 ・夏休み文化財教室 ・考古展 ・袋井市との共同展示会 ・発掘調査終了後には現地説明会を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・3史跡（和田岡古墳群、高天神城跡、横須賀城跡）の整備事業の推進。 ・松ヶ岡（旧山崎家住宅）の保存整備と活用事業。 ※松ヶ岡…江戸末期の豪商の屋敷の構えをほぼ原型のまま残しており、明治天皇の行在所という遺構でもある建築史的な意義がある。また、町人が優位に立つ近代化の幕開けとしての象徴でもある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大地震など災害時の相互協力。文化財被害等の情報共有化。復興事業時の埋蔵文化財調査体制の連携。 ・市域を超えて広範囲に生息する「ニホンカモシカ」対応の情報共有化や連携マニュアルの整備。 ・広域を対象とする埋蔵文化財発掘調査組織の整備。 ・未指定文化財の存続にあたって、近隣市の指定状況把握や指定基準の情報交換などの連携による文化財価値判断の確立。 |

※指定：歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを保護するため「指定」する

※登録：国または地方公共団体の指定を受けていない有形文化財のうち、保存と活用が特に必要なものを保護するため「登録」する。（実際は近世以後のものが対象となる）

| 自治体名 | 各市町の文化財の指定状況（件） | | | | 文化財の保護及び活用に係る各市町の課題 | 文化財の活用に係る各市町の取り組み | 今後、各市町において活用していきたいと考えている文化財やテーマ | 連携・研究を希望する事項 |
|------|-----------------|-----|------|-----|---|--|--|--|
| | 国指定 | 県指定 | 市町指定 | 国登録 | | | | |
| 袋井市 | 6 | 16 | 60 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・国県指定文化財（建造物）の数が多く建造物の老朽化に伴い修繕時期が重なり補助金の支出が増加している。 ・景気の好転に伴い、公共・民間とも埋蔵文化財の発掘調査が増加する傾向が顕著になりつつある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市指定文化財「澤野医院記念館」の一般公開事業 ・袋井宿開設四〇〇年に伴い文化財説明板や史跡案内標柱の設置。 ・文化財（建造物）の保存修理事業 ・市指定（史跡）「久野城址」の活用事業 ・「梅山八幡神社の流鏝馬」調査事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の偉人の顕彰 ・軽便鉄道等の地方の民間鉄道 ・歴史景観を伝える「秋葉山常夜燈」の調査と紹介 ・地域の景観施設でもある「火の見櫓」の調査と紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有化、PRなど |
| 湖西市 | 7 | 17 | 64 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・指定件数の増加に伴い、早急な対応が必要な修繕・修理箇所も増えているため、一層の財政的な支援が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・湖西市文化財マップを作成し、市内外にPRしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新居町地域に伝わる新居諏訪神社奉納煙火祭礼と、吉田地域（愛知県豊橋市）を中心とする東三河地域の祭礼花火との文化交流。 ・新居関所を中心とする街道交通。 ・市内五神社で10月に行われる流鏝馬神事。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新居諏訪神社奉納煙火祭礼が、平成25年度に「地域の文化遺産を活かした地域活性化事業」として文化庁に採択された。 ・浜名湖周辺の文化財を活用した連携。 |
| 御前崎市 | 2 | 4 | 23 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財を継承する人材の高齢化が加速しており、文化財を支える人材を若手にシフトする取り組みが急務である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度から、遠江歴史文化ネットワークにて、遠江を所管する12市町が共催して文化財のパネル展示を開催しており、今年度は、徳川家康公没後400年であることから、「家康の名所・旧跡・伝説の地」をテーマとしたパネル展を開催予定。 ・国の天然記念物であるアカウミガメの保護活動と啓発を行っており、産卵観察会と放流観察会では、市内外から多くの参加者が訪れている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中世城郭の活用。 ・秋葉街道（塩の道）・横須賀街道等の街道交流。 ・国指定天然記念物である「御前崎のウミガメ及びその産卵地」の活用。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク型での候補選出（日本遺産）。 |

※指定：歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを保護するため「指定」する

※登録：国または地方公共団体の指定を受けていない有形文化財のうち、保存と活用が特に必要なものを保護するため「登録」する。（実際は近世以後のものが対象となる）

| 自治体名 | 各市町の文化財の指定状況（件） | | | | 文化財の保護及び活用に係る 各市町の課題 | 文化財の活用に係る各市町の取り組み | 今後、各市町において活用していきたいと 考えている文化財やテーマ | 連携・研究を希望する事項 |
|------|-----------------|-----|------|-----|--|---|--|--|
| | 国指定 | 県指定 | 市町指定 | 国登録 | | | | |
| 菊川市 | 3 | 4 | 18 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 産業遺産や戦争遺跡等の近現代の文化遺産に関しては歴史的価値の判断が難しく、調査も進んでいない。 文化振興基本計画に基づくアーカイブの構築。 | <ul style="list-style-type: none"> 市内遺跡出土遺物のレプリカを作成し、埋蔵文化財センターに展示。 文化財普及事業として出前行政講座、土器作り体験を実施。 (H26年度 出前行政講座・・・6回 169人、土器作り体験・・・親子12組 27人) 観光部局と協力し、市が誘致したウォーキングイベントにおいて文化財の解説を実施。 遠江歴史文化ネットワーク事業の共催(資料提供)。 | <ul style="list-style-type: none"> 街道文化の普及（街道画の活用等）。 | <ul style="list-style-type: none"> 災害時の相互支援体制について（集中豪雨等により局地的に災害が発生した場合の近隣市町からの緊急支援）。 産業遺産や戦争遺跡について広域で調査研究し、歴史的価値の判断や安全管理も含めた保全への考え方等を共有したい。 街道文化普及のための広域的取組み。（交流イベントや統一された案内看板等） |
| 牧之原市 | 4 | 22 | 81 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 合併時の旧相良町と旧榛原町の指定文化財を全て引き継いだが、指定基準に差が見られるため、今後の統一が課題となる。 建造物については、所有者による保存管理費の負担が年々増大している。 天然記念物については、保存方法と倒木への安全管理が課題となっている。 無形民俗文化財については、保存する団体の高齢化と人員不足により活動が困難になってきている。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度から、遠江歴史文化ネットワークにて、遠江を所管する12市町が共催して文化財のパネル展示を開催している。 平成27年度に市史料館特別展にて市内の指定文化財を展示公開する。 | <ul style="list-style-type: none"> 静岡空港周辺の史跡の整備と活用。 民俗文化財の市内全域での連携。 城跡の活用。 | <ul style="list-style-type: none"> 「日本遺産」へのシリアル型（ネットワーク型）での候補提出 |
| 森町 | 2 | 15 | 88 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 建造物の保護・保存のため多額の経費が必要となること。また、個人所有の民家では世代交代により空き家になる可能性もあり、経費の面からも維持が難しくなっている。 個人所蔵の貴重な資料が流出する例が見られる。町所有の歴史資料等の保管施設にも限りがあり、新たな資料の受け入れが難しくなっている。また展示施設も限られており、資料の活用が課題である。 仏像や工芸品の修理が進んでいない。また常に管理人がいない寺社等では盗難も心配される | <ul style="list-style-type: none"> 遠州の小京都としての基本構想を示し、これに係る文化財の公開や整備を徐々に進めている。 武田・徳川の攻防による諸城を整備し、広く一般に公開し、地元保存会の協力を得ている。 遠州の小京都としての町並みの活用の町民活動を支援している。 町所有の文化財建造物（土蔵）を整備し、収蔵兼展示施設としての活用を計画している。（旧江間家土蔵） | <ul style="list-style-type: none"> 国指定重要文化財「友田家住宅」及びその周辺の自然と歴史的環境 小國・天宮両社の舞楽と、京都祇園祭の芸能として全国に誇る山名神社の舞 次郎柿原木の保存と次郎柿生産・販売促進への活用 遠州の小京都として位置づけられる史跡の整備、活用 町内40カ所に残る城跡の整備、活用 | <ul style="list-style-type: none"> 三遠南信地域の芸能の日本遺産への登録 遠江国府・一宮を中心とした遠江国内の歴史的・文化的中核都市としての位置づけ（遠州の小京都たる由縁） |
| 計 | 64 | 204 | 858 | 68 | | | | |

※指定：歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを保護するため「指定」する

※登録：国または地方公共団体の指定を受けていない有形文化財のうち、保存と活用が特に必要なものを保護するため「登録」する（実際は近世以後のものが対象となる）

「健康寿命」って何だろっ？

「健康寿命」とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことをいいます。

浜松市国民健康保険医療費
(平成25年5月診療分)

腎不全…………… 3億3,261万円 (885件)
 高血圧性疾患… 2億4,870万円 (24,432件)
 糖尿病…………… 1億8,327万円 (8,600件)

国保年金課調べ

5年前は22.33%
 浜松市の高齢化率…

24.93%
 浜松市人口… 810,642人
 65歳以上… 202,085人

浜松市統計資料 (平成26年10月1日現在)

5年でおおよそ7,000人増
 浜松市の要支援・要介護認定者数…

33,440人
介護保険課調べ (平成26年9月30日現在)

いつまでも
 元気に生きる



20大都市の中で…

1 2010年
(平成22年)
 時点で

位

浜松市民はこんなにも
 健康で長生き!

「健康寿命」浜松市平均

男性(1位) 女性(1位)

72.98年 75.94年

厚生労働科学研究による全国20大都市の「健康寿命」データ 2010 (平成22)年

「健康寿命」全国平均

男性 70.42年 女性 73.62年

厚生労働科学研究による「健康寿命」データ 2010 (平成22)年

「平均寿命」全国平均 2013 (平成25)年

男性 80.21年 女性 86.61年

厚生労働省「平成25年簡易生命表」

最下位の都市と比べると
4年(オリンピック1回分)も長い!

(最下位の都市の健康寿命:男性68.15年 女性71.86年)

浜松市が「20大都市健康寿命日本1」と新聞などで報道されたのは、2014(平成26)年5月のこと。最下位の都市と比べると、おおよそ4年も長いことがわかりました。認知症や寝たきりにならないで元気に暮らすことのできる期間が長いということは、本人も周囲も明るく健康的な生活が持続し大変喜ばしいことです。

さらには、社会保障費の増加を抑えることにもつながると期待されています。

そして、健康寿命は高齢期だけの話ではありません。個人の生涯にわたっての健康づくりはもちろんのこと、学校や職場、地域社会などでの取り組みも大切です。市では社会全体で市民の健康を支えようという計画*のもとに健康づくりを進めています。

さあ、みんなでやらないか! 元気な人づくり。そして、健康寿命日本1を目指しましょう。

*浜松市の健康増進計画「健康はままつ21」は、21世紀における「健康づくり」を進めていくために「市民のやamaiか」「健康づくりに関わる団体のやamaiか」「行政のやamaiか」を掲げた計画です。



尾島俊之 おじまとしゆき

1987(昭和62)年自治医科大学卒業、1992年愛知県保健所長、1995年自治医科大学勤務(途中、2002~2003年米国UCLA留学)、2006年~浜松医科大学教授。現在の研究テーマ:健康の社会的決定要因(健康格差)、健康寿命、介護予防、母子保健、大規模災害(南海トラフ地震への備え)など

そもそも浜松はなぜ健康寿命が長いのか?

平均寿命よりも健康寿命

日本人の平均寿命は世界でトップクラスとなった一方で、高齢化が進み、介護を必要とする人の増加が深刻な問題となっています。そこで、単なる長生きではなく「健康で長生き」という寿命の質が重視されてきたことから、健康寿命が注目されるようになりました。

そして、厚生労働省の研究班によってその計算方法が確立され、2012(平成24)年に都道府県ごとの健康寿命(平成22年版)がさらにその後20大都市の結果が公表されました。健康寿命が長いというの学術的に言うと「死亡率が低い」「そして「健康上の問題で日常生活に制限がない」「つまり「元気です」と言っている人の割合が多い」ということです。その結果、浜松市が男女とも日本一

となったわけですが、他市と比べ数値が飛び抜けていることには驚きました。

浜松市のポテンシャル

では、なぜ浜松市の健康寿命が長いのかという要因をあげてみると、

- 気候が温暖で日照時間が長い(「つ」になり、骨密度や免疫力を高める条件)
- 気候や水資源などの恵まれた自然環境は、野菜やミカン、お茶、ウナギといった豊かな農林水産物を育んでいる(市民は身近なところから良質の食材を手に入れることができます)
- 就労率が高く、高齢者の社会参加が活発
- 市内には企業の数が多く、経済的に落ちている

● 世界ブランドの企業やそれを支える中小企業が多い
(高齢になっても企業の戦力)

● 中山間地域も含め農業が盛んで、定年がない
古くから東西の文化が行き交う東海道筋に位置している

● 「好奇心旺盛で社会的な市民性の醸成」
浜松方式といわれる医療体制を始めとする医療の環境が充実している

「症状に応じた医院や病院の役割分担による「たらいまわし」の防止」

● 市民の健康増進計画「健康はままつ21」に基づく市の着実な取り組みなどが考えられます。

● 健康都市浜松には「やらまいか」の向きの風土があり、働きものですから、

やらまいかで一人一人の健康づくり

健康都市浜松には「やらまいか」の向きの風土があり、働きものですから、

それだけに多少のことは気にせず「元気ですよ」と答える方が多いのかもしれません。ただ、気がかりな点もあります。実際の健康診断の統計で血糖値が高いこと、糖尿病予備軍が非常に多いのです。お惣菜の購入率も高いと聞きます。「やらまいか」で元気に働いている人がすく仕事に取りかかれるように、既製品のおかずで短時間に食事を済ませている傾向があるのかもしれない。ゆつくり食べることを心掛けていただければ、血糖値もゆつくり上がるようになり、また、健康寿命が長いということは、浜松市がとても暮らしやすい地域だということ。この素晴らしい環境を再認識し、適度な運動をしたり、特定健診やがん検診を受けたりして、自身でできる健康づくりを実践していただければ、浜松市はもっと健康寿命を延ばすことができると思います。

ここもスゴイ! 浜松の医療体制(浜松方式)

『たらいまわしなし』の救急医療体制

1次救急、2次救急、3次救急は、軽症な患者と重症な患者の受け入れを分担しています。これは、特定の病院に患者が集中するのを防ぎ、各医療機関でスピーディーに適切な処置を行うためです。

- 《1次救急》風邪や切り傷といった軽症状の患者を診察
- 《2次救急》入院や手術を必要とする患者を受け入れる総合病院での診察
- 《3次救急》生命に危険が及ぶような重症・危篤患者を受け入れる救命救急センターでの診察

これに加えて眼科・耳鼻科・産婦人科は毎晩医師が当番制で自宅待機し、必要があれば対応する体制(1.5次救急)を構築しています。



がんの早期発見

がん検診に日本初の遠隔デジタルシステム導入(浜松市医師会)。

減塩低カロリー運動

減塩低カロリー弁当など健康・食事・運動に関する啓発運動を推進。

浜松医科大学で教鞭をとる尾島俊之教授は、公衆衛生学の第一人者。浜松市の健康寿命や市民の健康づくりについて話を伺いました。

ここがスゴイ! 浜松の健康底力(全国20大都市)



年間平均日照時間 1位

2,460.6時間(平成25年気象庁全国気候表)



自殺死亡率の低さ 1位

16.8人/人口10万人対(平成24年人口動態統計)



15歳以上の就労率 1位

58.7%(平成22年国勢調査)



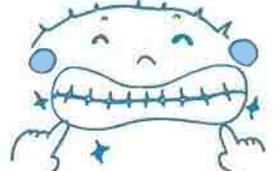
うなぎの蒲焼き年間支出金額 1位

4,566円/世帯(2人以上)(平成23~25年総務省家計調査)



緑茶の年間支出金額 2位

8,216円/世帯(2人以上)(平成23~25年総務省家計調査)



3歳児のむし歯の少なさ 2位

1人平均むし歯数0.33本(平成24年厚生労働省「3歳児歯科健康診査実施状況」)



めざせ
健康寿命
日本一!

「やらまいか健康チェック」

今日から延ばす健康寿命

健康寿命を延ばすには、歳をとってからではなく、ライフステージに応じた一生を通じての健康づくりが大切です。

さあ、今から一人一人が自分にあった健康づくりを見つけ、取り組みましょう。

| | | | | | |
|---|--|--|---|--|---|
|  <p>高齢期Ⅱ 75歳以上</p> <p>見いだそう 人生の楽しみ いきいき笑顔</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> </p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 地域活動(自治会・老人クラブなどに積極的に参加する) <input type="checkbox"/> よく笑い、よくしゃべる <input type="checkbox"/> 健診(医科・歯科)を定期的に受ける <input type="checkbox"/> 趣味や生きがいを持つ <input type="checkbox"/> 外出する機会を増やす <input type="checkbox"/> 1日1回自分の歯と口を見る |  <p>高齢期Ⅰ 65歳~74歳</p> <p>見いだそう 人生の楽しみ いきいき笑顔</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> </p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 趣味や生きがいを持つ <input type="checkbox"/> ボランティア活動に参加する <input type="checkbox"/> 健診(医科・歯科)を定期的に受ける <input type="checkbox"/> 基本チェックリストを受け、自分の状態を知る <input type="checkbox"/> いろいろな食品をバランスよく食べる <input type="checkbox"/> 週1回は30分以上体力に合った運動・スポーツを楽しむ <input type="checkbox"/> 自分の口に合った歯の磨き方を身につける |  <p>中年期 45歳~64歳</p> <p>見つめよう 自分の健康 自分で管理</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> </p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 健診(医科・歯科)を定期的に受ける <input type="checkbox"/> 毎日、体重計にのる <input type="checkbox"/> 意識的に今より1,000歩多く歩く <input type="checkbox"/> 自分に合ったストレス解消法を持つ <input type="checkbox"/> 適正飲酒、休肝日をつくる |  <p>青年期・壮年期 20歳~44歳</p> <p>見直そう 今の生活 未来の健康</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> </p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 意識的に今より1,000歩多く歩く <input type="checkbox"/> 悩み事を相談できる相手を持つ <input type="checkbox"/> 夜寝る前(2時間前)はものを食べない <input type="checkbox"/> 7~8時間は睡眠をとる <input type="checkbox"/> たばこは吸わない <input type="checkbox"/> 適正飲酒、休肝日をつくる |  <p>思春期 13歳~19歳</p> <p>大切にしよう 自分の体 将来の夢</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> </p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分から気軽にあいさつをする <input type="checkbox"/> 朝食を必ずとる <input type="checkbox"/> いろいろな食品をバランスよく食べる <input type="checkbox"/> 悩み事を相談できる友達を持つ <input type="checkbox"/> 酒・たばこ・薬物に手を出さない <input type="checkbox"/> 性感染症の予防について正しい知識を身につける <input type="checkbox"/> フッ素入り歯磨き剤と糸つきようじを使って歯を磨く |  <p>乳幼児・学童期 1歳~12歳</p> <p>身につけよう 基本的な生活習慣</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> </p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 早寝・早起きをする <input type="checkbox"/> 朝食を必ずとる <input type="checkbox"/> 家族や友達と話をする <input type="checkbox"/> 外で楽しく遊ぶ <input type="checkbox"/> フッ素入り歯磨き剤を使って歯を磨く |
|---|--|--|---|--|---|

お役立ち情報

生活情報

- 朝のラジオ体操に参加しよう…
ラジオ体操実施登録会場:全国ラジオ体操連盟ホームページ参照 <http://www.rajio-taiso.jp>
- 長年培った能力を生かそう…適切な仕事のご紹介「シルバー人材センター」 ☎053-454-2031 《P10参照》
- 音楽を聴きに出かけよう…浜松市文化振興財団 <http://www.hcf.or.jp>
- ロコトレ(ロコモーショントレーニング)を始めよう…高齢者福祉課 ☎053-457-2789 《P8参照》
- 生きがいづくりに出かけよう…シニアクラブや老人福祉センター 高齢者福祉課 ☎053-457-2789 《P10参照》

相談情報

- 子育ては一人で悩まない…浜松市子育て情報サイト「ひっぴ」 <http://www.hamamatsu-pippi.net>
- かかりつけ医院・病院を見つけよう…はままつドクターマップナビ <http://www.hamamatsu-doctormap.jp>
- こころのほっとライン…精神保健福祉センター ☎053-457-2195
- 健康相談各区役所担当窓口…中区(健康づくり課/☎053-457-2890) 東区(健康づくり課/☎053-424-0122) 西区(健康づくり課/☎053-597-1174) 南区(健康づくり課/☎053-425-1590) 北区(健康づくり課[引佐健康センター]/☎053-542-0857) 浜北区(健康づくり課[浜北保健センター]/☎053-587-0739) 天竜区(健康づくり課/☎053-922-0075)
- 歯の相談…歯の健康センター ☎053-453-6129

めざせ
健康寿命
日本一!

「やらまいか!」今日からできる健康づくり

ロコトレ
(ロコモーション
トレーニング)
やってみよう!

ロコモティブシンドローム(運動器症候群)とは?

骨、関節、筋肉などの運動器の働きが衰え、立ったり、歩いたりすることが苦手になってきた状態をロコモティブシンドローム(運動器症候群)略して「ロコモ」といいます。

ロコチェック

- 片足立ちで靴下がはけない
- 家の中でつまずいたり滑ったりする
- 階段を上るのに手すりが必要である
- 横断歩道を青信号で渡りきれない
- 15分くらい続けて歩けない
- 2kg程度の買い物(1リットルの牛乳パック2本程度)をして持ち帰るのが困難である
- 家のやや重い仕事(掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)が困難である

ロコトレ ① 開眼片足立ち

回数の目安:左右1分間ずつ 1日3セット

- ① 机などの横に、背筋をまっすぐにして立つ
- ② 右手をついたら右足を1分上げる
- ③ 左手をついたら左足を1分上げる

ポイント
転倒しないよう必ず机などつかまるものがある場所で行う



ポイント
床につかない程度片足をあげる
※足を上げ過ぎるのは危険です

★支えが必要な人は机に手や指について挑戦!



ロコトレ ② スクワット

回数の目安:1セット5~6回 1日3セット

- ① 足は肩幅より少し広く開き、つま先は30度ほど外向き
- ポイント**
・安全のために椅子やソファなどの前で行う
・深呼吸をする要領で、息を止めずに5~6回繰り返す
・太ももの前や後ろの筋肉に力が入っているか意識する



② 椅子に腰掛けるように、お尻をゆっくり下ろす

③ ゆっくり戻す

ポイント
・膝がつま先より前にならないように
・膝の曲がる向きは、足の人差し指の方向にする
・膝の曲がりは90度を越えないように

体調に不安がある時などは、医師に相談してから始めましょう。また、痛みを感じた場合はすぐに止め、医師に相談しましょう。

「一汁三菜」を始めよう!

汁物1品とおかずの3品(主菜1品+副菜2品)で「一汁三菜」。日本の食卓に根付いている食事スタイルは理想的な栄養バランスがとれ、世界に誇るものです。貴重な食文化の継承とともに、健康的な食生活を実践しましょう。

「和食」 ユネスコ無形 文化遺産登録!



食前が効果的!

「だ液腺マッサージ」をやってみよう!

だ液には「消化を助ける」「歯と歯ぐきを守る」「全身の健康を守る」といった働きがあります。



ぜっかせん
舌下腺

がくかせん
顎下腺

じかせん
耳下腺

① 耳下腺への刺激
親指以外の4本の指を頬にあて、耳下腺の上でぐるぐる回す(10回)

② 顎下腺への刺激
耳の下から顎の先まで5カ所を目安に、親指で突き上げるように押す(25回)

③ 舌下腺への刺激
顎の真下から舌を突き上げるようにゆっくりぐーっと押す(10回)

「お口の筋肉マッサージ」をやってみよう!

歯磨きのついでにできる、一石二鳥の歯つらつ習慣!

歯ブラシの背で、左右の頬の内側の筋肉をマッサージします。硬くなった頬の筋肉が柔らかくなり、お口の機能がアップ。

年に一度は歯医者さんに行こう!

かかりつけ歯科医院を持ち、定期的に歯科検診を受けましょう。

自分の歯で食べる!

80歳になっても自分の歯を20本以上残す「8020」を目指しましょう。



20本以上、自分の歯がある人の割合(80~84歳)

全国... 28.9%(平成23年度歯科疾患実態調査結果) 浜松市... 47.6%(平成23年度浜松市市民アンケート)





市民協働で健康づくり

小学生のレシピ採用!

わたしたちの給食献立イラストコンテスト

浜松市中央卸売市場では、市内の小学5年生を対象に「浜松の食の魅力と大切さ!」をテーマとした「わたしたちの給食献立イラストコンテスト」を毎年実施しています。レシピの条件は、浜松の農林水産物1品を使用すること。優秀賞5作品の試食審査を経て決定される最優秀賞は、実際に市内の小・中学校で学校給食のメニューとなって登場します。コンテストは、子どもたちに食の大切さ楽しさを気づかせるとともに、学校生活のよい思い出になっています。

【主催】浜松市中央卸売市場 【協力】浜松市中央卸売市場協力会
【後援】浜松市教育委員会 【調理協力】東海調理製菓専門学校
■問い合わせ先 浜松市中央卸売市場 ☎ 053-427-7406



浜松の農林水産物がたっぷり入った「カレースープ」が最優秀賞に!



高齢者を応援します!

生きがいつくり事業

高齢者の皆さんがより自由な立場を生かして楽しみ、動き、地域社会に貢献するなど、さまざまな形で社会的に活躍していただくための事業を実施しています。

■問い合わせ先
高齢者福祉課 ☎ 053-457-2789

健康づくり

老人福祉センターなど



60歳以上が楽しむ江之島荘(南区)の「健康づくり教室」

仲間づくり

シニアクラブなど



30余年続く三島楊子公園ラジョイ体操会(南区)

仕事づくり

シルバー人材センター



特技を生かし依頼主の庭木の剪定をするシルバー会員

企業・団体も活動中!

健康はままつ21推進協力団体

健康づくりに行政とともに取り組む企業や非営利団体などは「健康はままつ21推進協力団体」として参画し、健康づくりを推進しています。参加団体は165(平成26年12月5日現在)。健康イベントや講習会を開催し、市民が気軽に、そして楽しく健康づくりに参加できる機会をつくるための取り組みを行っています。

「健康はままつ21推進協力団体」募集中!

登録申請書は浜松市公式ホームページからダウンロードできます。

健康はままつ21推進協力団体 登録申請書



協力団体加盟のスーパーマーケットで開催された健康イベントにボランティアも参加。

■問い合わせ先
健康増進課 ☎ 053-453-6125

元気の素は 絆と気遣い、おせっかい?



「浜松は、地元の行事や祭りが多いです」浜松市を訪れる人や移り住んだ人から聞く言葉だ。実際に運動会や草刈り、花火大会など、自治会活動は1年を通して盛んである。特に、祭りや伝統芸能は地域の欠かすことができない風習として行われ、引き継がれている。例えば、大太鼓で豊漁を祈願する祭り、天竜川の神を崇める祭り、家康公を起源とする祭り、五穀豊穡を祈願する神事など、実に多彩である。また、これらの地域ごとの祭事に加え、浜松市では都市の祭りである「浜松まつり」の存在が特徴的だ。2014(平成26)年には、174町が参加。参加町全体で行われる風あけ合戦と御殿屋台の引き回しや練りのほか、町単位での「初子の祝い」も行われている。

「ソーシャルキャピタル」という言葉をご存じだろうか。健康寿命には食事、運動、喫煙などの生活習慣や気候条件、医療体制などのほかに、社会参加や地域のつながりも影響を与えているといわれている。この地域に根ざした信頼やネットワーク、社会規範の特徴をソーシャルキャピタル(社会関係資本)といい、学術的な研究対象にもなっている。たびたび紹介されるのは、労働環境や食生活が周辺の町と変わらないのに心臓疾患による死亡率や高齢者の死亡率が明らかに低いというふうな地域の事例である。そこには住民同士の気遣いや強い絆の存在が確認されているという。

浜松市の場合もこの例に当てはまるのではないだろうか。地域の祭りや行事においては、子どもから大人までが協力し、所作やしきたりにのっとり行進していく、準備から完結する一連の時間の中で地域の結束が育まれる。そして、祭事の賑わいと継承は、地域の日々の付き合ひの深まりにつながり「最近、○○さんの姿を見ていないね」「誰それが入院した」などの近所情報や伝達ともすればおせっかいともいえる近隣への気遣いが日常に根付いていくのである。こうした地域の「コミュニティ」や絆が市全体の健康寿命を延ばすことに寄与しているのかもしれない。

さらに、この地域「コミュニティ」を増幅する場が市内には充実しているという。市史編さん執筆委員の鈴木正之さんは「全国的に見ても浜松市には図書館や協働センター(公民館)、民間のカルチャーセンターなどが多く、多くの市民の皆さんがここで学んでいる。協働センターに「部併設された体育館、休日や夜間開放されている学校の体育館やグラウンドでも多くの人たちが運動に励んでいる。このように学習や運動など恵まれた環境の中で地域の人たちが交流の輪を広げている」と話す。

今後は、健康寿命とソーシャルキャピタルとの関係の研究がさらに進んでいくだろう。浜松市の健康寿命が長いことは「地域活動を原点とした絆や近隣への気遣いであった」と解明されることを期待したい。

健康で長生きしたければ 浜松市に住もう!

市のキャッチフレーズ「創造都市浜松」「音楽のまち浜松」「出世の街・浜松」に加え「健康で長生きしたければ浜松市に住もう」を掲げて市をPRしようと、市長も健康づくりを実践しています。市役所の5階にある市長室へはエレベーターを使わない、朝起きての筋トレは腕立て伏せを200回!忙しい市長も「運動はやろうと思えばどこでもできる」の信条のもと、長期継続中。さあ、みんなで作らまいか! 元気な人づくり。目指せ、健康寿命、日本一!



主な参考文献:

ソーシャル・キャピタル入門・孤立から絆へ／稲葉陽二
へるすあっぷ21 2013年1月号「特集 めざせ健康長寿」／株式会社 法研
浜松まつり-学際的分析と比較の視点から／荒川章二 笹原恵
山道太郎 山道佳子

あかるい浜松第7号

2015年1月発行(年4回発行)

発行／浜松市広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町103-2

TEL／053-457-2021 FAX／053-457-2028

Eメール／koho-g@city.hamamatsu.shizuoka.jp

ホームページ／<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>



浜松市マスコットキャラクター
はままつ福市長 出世犬名家康くん
「ゆるキャラ®グランプリ2013」準グランプリ。



皆様のご感想やご意見、取り上げてもらいたい
テーマなどを募集しています。
広聴広報課までお願いします。

H 2 7 . 7 . 9

遠州広域行政推進会議

掛川市長

健康寿命の延伸に向けた取組について

1. 掛川市の取り組み

（1）疾病の早期発見・早期治療

- ①がん検診の受診者数を増やし、悪性新生物の早期発見・早期治療に繋げる。
また、精密検査未受診者への受診勧奨の実施
- ②特定健診の受診者数を増やし、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の早期発見・早期治療に繋げる。
- ③骨粗しょう症の早期発見・早期治療に繋げ、骨折等の予防を図るため検診の受診者数の増を図る。精密検査未受診者への受診勧奨の実施。

（2）生活習慣病を予防

- ①特定健診受診者数を増やし、改善の必要者は保健指導を実施
- ②かけがわふじ33プログラム（「食事」「運動」「社会参加」）による健康講座、運動教室の実施
- ③事業所への出前健康教育（子どもも一緒に取り組む運動）
- ④世界糖尿病デーや健康フェアなどのイベントによる健康づくりの啓発
- ⑤糖尿病対策の強化（勉強会・研修会の実施）・・・要介護認定者低下に繋がる
→狙い
- ⑥食育セミナーを実施し、健康づくり食生活推進員の育成
- ⑦健康相談（肺がん・結核検診時、3歳児健診（ママパパの簡単健康チェック）による支援
- ⑧乳幼児期からの規則的な生活習慣づくりの推進
- ⑨小・中・高校生を対象とした生活習慣病予防講座、食育教室

（3）市民が健康づくりに取り組みやすい環境づくり

- ①かけがわ健康づくり実践事業所の認定の実施
- ②かけがわ健康応援店の認定の実施
- ③健康づくり推進事業費補助金

(4) お達者度県下1プランプロジェクト(協議中)

3年間でお達者度県下1に目標を絞り、短期的に施策を実施、目標を達成するためのプロジェクト

①介護予防事業として「自分で」「地域で」取り組む健康づくりを開催。
(〇〇教室等)

(5) 緑茶活用事業

①掛川スタディの実施

緑茶の健康増進効果を確立し、健康増進効果の高い品種を開発するための研究事業。

- ・東北大学、野菜茶業研究所、掛川市が共同し、コホート研究を実施
- ・平成21年からの3年間で掛川市内居住の30歳以上のうち、1,536人からなるコホートを形成
- ・掛川市特産である「やぶきた」の摂取により、悪玉コレステロールの減少、ウエスト減少の結果が得られた。

②イベント開催による緑茶の健康機能性の市民への啓蒙活動

2. 介護予防に係る現状と課題

- ①介護保険法の改正による新しい総合事業の構成を検討する中で、今年度は、既存の地域資源の整理を行っている。サービス提供主体の確保等が問題になる。
- ②75歳以上の運動習慣の把握ができていない。高齢者の運動に対する意識の向上。

3. 連携・研究を希望する事項

①地方包括ケアシステムの取組状況の情報共有

地域包括ケアシステム

介護が必要になった高齢者も、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の五つのサービスを、一体的に受けられる支援体制。概ね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域を単位として想定している。

②介護予防・日常生活支援総合事業への移行についての情報交換

